

総務市民文教委員会市内視察報告書

市内視察における調査結果について、下記のとおり報告します。

平成25年5月26日

光市議会議長 中 村 賢 道 様

光市総務市民文教委員会

委員長 林 節 子

副委員長 木村 則 夫

委 員 磯部 登志恵

委 員 加賀美允 彦

委 員 木村 信 秀

委 員 中本 和 行

委 員 森重 明 美

委 員 森戸 芳 史

委 員 四浦 順一郎

随 行 大濱 貴之 (事務局)

記

- 1 研修年月日 平成25年5月21日(火) 10時～14時
- 2 視 察 先 (1)伊藤公資料館
(2)東荷小学校
- 3 調査結果等 別紙のとおり (資料含む)
- 4 費 用 給食代 @250円／個人支払い (学校給食会食)

(別 紙)

○市内現地視察 伊藤公資料館

1 視察年月日 平成25年5月21日(火) 10時～11時

2 調査事項及び調査結果

(1) 調査場所 「大和伊藤公資料館」

(2) 調査事項

ア 入館料改定後の館の運営状況や特別展、常設展について

イ 東荷小学校の複式学級の授業の様子と学校給食について

(3) 説明要旨

★料金設定

H25年、3月議会で行財政改革の一環として取り組む各種公共施設の使用料金が改定された。

殆どの改定料金がアップする中、当資料館に於いては、光市固有の歴史的財産でもあり、郷土の偉人をしのび歴史を学ぶ、活きた教材としての教育的配慮の観点からも入館料の減額・免除の設定がなされ条例改正が行われたところだ。

入館料 (新)

区 分	個 人	団体（20人以上）
常 設 展 示	2 5 0 円	@ 2 0 0 円
特 別 展 示	1,000 円以内で市長が定める額	
備考 高校生以下は無料		

(旧)

区 分		個 人	団体 (20人以上)
常 設 展 示	一般	440 円	@350 円
	大学生 高校生	330 円	@260 円
	中学生 小学生	220 円	@170 円
特別展示		1,000 円以内で市長が定める額	

★平成25年度の取組みと今後のより充実した伊藤公資料館の展望

【伊藤公資料館における平成25年度事業概要】

(1) 伊藤公遺徳継承事業
企画展

- ・長州ファイブ英国渡航150周年記念「伊藤博文と杉孫七郎」の開催（春）
- ・〃（仮称）長州ファイブの開催（秋）
- ・子ども歴史講座の実施
- （2）入館料の改定
- （3）常設展示の充実
- （4）教育普及活動の継承
- （5）資料館利用の促進

等の事業を掲げ、光市民の多くが伊藤博文公の遺徳を継承するために、資料館の利用向上、またひいては観光施設として今後の入館者数及び入館料のアップに向けてスタッフ全員が、鋭意努力中。



3 所 感

長州ファイブ英国渡航150周年記念「伊藤博文と杉孫七郎」の開催を拝観し、長州ファイブの幕開けをテーマとして、長州ファイブ以前に西欧の地を訪れ、長州ファイブの渡航に影響を及ぼした杉孫七郎に光を当て、杉は伊藤博文をはじめとする本市の歴史人物とも交流があることの詳細な説明を受けた。

また、伊藤公資料館の入館料改定を本年4月から実施。大人440円を250円とし、教育的配慮により高校生以下は無料となっている。

今後の影響に期待し、伊藤公の偉業を多くの方々に見て、知り、伝えていってほしいと思っている。

今後地域観光の拠点施設として、積極的に情報発信を行っていただくことを願っている。
(林 節子)

4月から入館料も減額され、入館しやすい状況となっているが、やはり資料館にいくら良いものが展示されていたとしても、それを活かす積極的な説明員や興味をそそる工夫がなければ入館者を増やすことは難しいだろう。そのよう

な中で近隣の施設である里の厨とのジョイント等は面白い企画と感じたが、満足して帰っていただくためには、常に来館者が何を期待しているか工夫していく必要があると思う。

何はともあれ、情報発信の工夫、市内の観光施設との連携や市外との連携に営業活動も含め大いに期待しているが、積極的な企画、説明員の研修等人を育てていくことに力を入れてほしい。次回秋に行われる企画展、今回の話の続きを聞きに行くことを今から楽しみにしている。

(磯部 登志恵)

伊藤公資料館での入館者数は 21 年度の 1 万 2,103 名をピークに 23 年度まで減り続けていたが、こうした状況を鑑み、平成 24 年度、25 年度とさまざまな取り組みを企画して広く入館者を増やしていこうとする意欲が感じられた。

中でも『伊藤博文公遺徳継承事業』などは、伊藤公の生誕地である光市を全国に向けて発信しようという企画である。伊藤公資料館というハードに加え、これからは、ソフト面で勝負していくことが必要だと考える。

(加賀美 允彦)

本年度は、長州ファイブ英国渡航 150 周年ということで、さまざまな企画をされており、事業計画において集客拡大を図られていることが感じられた。ただし、記念館事業が本年度から学生に対し、教育的配慮により入館料が減額されたこともあり、入館者増に対し、入館料収入が横ばいという状況であることが判った。

また、「里の厨」との連携により、千円以上の買い物レシートでの割引券を発行する「里厨割」の活用など、今後市内からの入館者増はもとより、他市、他地域からの流入増・収入増に向け、さまざまな取り組みに期待したい。

(木村 信秀)

平成 25 年度は、長州ファイブ英国渡航 150 周年にあたり、春と秋に企画展が開催される。

常設展示は、職員の手づくりで充実した内容になっていた。入館料を減額改正されたこともあわせ、今後より積極的な活用に取り組んでいただきたい。

(木村 則夫)

3 月に開館 20 万人の入館者を達成した伊藤公資料館は、本年度は、学生の入館料減額などに取り組むなど、幕末から明治末までの日本の動きを学習する場として、さまざまな企画展を行いながら魅力ある情報発信を行っていることが判った。

今年は長州ファイブ英国渡航 150 周年の節目の年である。この機会に、次

代を担う若い世代に郷土の偉人、伊藤博文公をより良く知ってもらうため、職員などの一層の働きを期待する。
(中本 和行)

光市東部の観光スポットの一つである伊藤公資料館を中心に周辺施設を巻き込んだ、魅力ある観光エリアを創出しつつある。

周辺他市からも大好評の「里の厨」とのタイアップでレシート 1,000 円以上の提示で 2 名様まで入館料が 200 円になる「里厨割」など、市場並みの集客率向上戦略にも取組み、まだまだ展開の余地があり期待感が持てる視察であった。
(森重 明美)

伊藤公記念館については、学芸員が配置されたことで企画展の質が高まった。光市においては、文化芸術団体の数および活動量も多く、文化力は非常に高いものがある。埋もれている文化資源を発掘し、市民にフィードバックし、市内外に発信しまちのイメージの底上げを積極的にはかる必要がある。そのためには学芸員の採用と広報力を磨く必要がある。専門的な委託も検討できないだろうか。
(森戸 芳史)

- 1 資料館内では、熟練したプロの流暢な説明であったのにびっくり。聞けば説明者は、教育委員会文化・生涯学習課の職員で、山口大学在学中に学芸員の資格を取得したということである。文化・生涯学習課の仕事と両立させる苦労があると思うが、9月3日から長州ファイブ英国渡航150周年記念企画展も計画されており団体客や学生集団などが訪れる折には、さらに磨きをかけた説明に期待したい。
- 2 郷土の偉人の資料館をもち、その充実をはかることは良いことである。同時に、それを褒めたたえるだけでなく、事実には忠実な構成が欠かせない。少なくとも、いま光市の学校で採用している歴史教科書の内容にそった資料集にすること、そしてグローバルの時代であるから隣国の人々が資料館を訪れたとき、違和感のない構成になっていることが求められる。

(四浦順一郎)

○市内現地視察 東荷小学校 複式学級指導・学校給食

1 視察年月日 平成 25 年 5 月 21 日(火) 11 時 35 分～13 : 40

2 調査事項及び調査結果

(1) 調査場所 「東荷小学校」

(2) 調査事項

ア 複式授業・複式解消授業・単式授業（主に複式授業）

イ 学校 給食会食

(3) 説明要旨

少子化に伴う教育施設等の統廃合が行革の観点からは、大きな課題とされているところであるが、光市に於いても入園児や入学児ゼロの現実を踏まえ、今後の施設の存続について考えて行く必要がある。

今年度、新入生が不在であった東荷小学校の授業内容について如何様な授業が行われているのか、児童生徒にとって 団体生活における教育的な観点から少人数学級の問題はないのか等、実際の授業参観を通して学ぶこととする。

★ 3・4 年生の複式授業

算数公開参観

【学級構成】

3 年生 ⇒ 4 人 }
4 年生 ⇒ 1 人 } 学年別指導

学級を構成している上学年と下学年の児童生徒に対して、学年ごとの教科書あるいは指導事項に沿った教材で指導する指導方式。

この場合、教師はそれぞれの学年の児童生徒に異なる内容を指導するので、一方の学年を指導している（**直接指導**）間、もう一方の学年は、自学自習の学習をして行く（**間接指導**）事になる。

教師は同時に 2 つの授業内容をみる事になり、

「わたり」・・・教師が一方の学年からもう一方の学年へと交互に移動して各学年の間をわたり歩く教師の動き

「ずらし」・・・2 個学年を交互にわたり歩いて、直接指導と関節指導の内容を充実させ、学習活動を無理なく効率的に行うために、指導段階を学年別にずらし組み合わせたもの

★東荷小学校の取組み

東荷小学校では、自力で解決に取り組む（一人学び）時間を設定。担任がゆとりをもち両学年の児童生徒の学習状況を把握すると共にそれに応じて、個別指導を行う事が出来るようにしている。

東荷小学校の現3・4年クラスは4年生の生徒が一人であるため初めての試みとして、塩田小学校の4年生と合同での一緒に学びをはじめた。6月は2回予定

★複式学級の良さと課題

《良さ》

- ・学年を超えて学び合うことができる
- ・教師がつかない時間に自学自習時を経験し自ら、学び考える力を育成
- ・教師は個に応じた指導ができる

《課題》

- ・相互交流の相手が限定。生活経験や学習経験が豊かにならず乏しい
- ・学年別の指導では児童は教師の直接的な指導時間が短い
- ・大きな集団場面での社会的経験の場と機会の不足
などがあげられている。

(4) 質疑応答（主なもの）

問： 学力競争へのモチベーションを維持するためには？

答： 人数不足を感じさせないようにするため、学年の枠を超えみんなで音読をしたり、年に数回学校交流を行っている。

問： 学力が劣る人への配慮は？

答： 最初できなくても、継続することで出来るようになる事が多い。授業の中で出来なくてもお昼休みを補修などにあてて、次の授業まで同じラインに立てるようにしている。むしろ、少人数のほうがマンツーマンでの対応なので授業のつまづきをチェックしやすいというメリットがある。

問： 生徒の中でリーダーを決める授業（自主性を高める授業）はどうか？

答： 子ども同志では、間違いをそのまま流してしまう事もある。リーダーを決めて任せて授業をする方法もあるが、最終的な所は、やはり教員が目を通して閉める事が重要。

問： 東荷小学校の他校にない素晴らしいところとは？

答： 他校であまり取組みがないもので、障害者施設の方々を運動会などに招

待して、一緒に競技をしたり、逆に障害者施設からクリスマス会に招待されて、互いの交流が非常に自然に育まれている。



(5) 所 感

今年度の新入学児童は0人で、明治7年の創立以来始めてとなった来年度で140年の歴史ある本校は、伊藤博文公の生誕の地であり、誇りとした教育に取り組む。校歌にも「藤公の心受け継ぐ」の歌詞が入っている。

本校の複式学級の授業は、3・4年生であり、1つの教室の前後に黒板があり、児童が背中合わせに算数の授業をし、一人の先生により指導されていた。

相互交流の相手が限定され、生活経験や学習経験を豊かにならず、発展性に乏しく、教師の直接的な指導を受ける時間が少ないなどの課題（ピンチ）を良さ（チャンス）と捕らえ、自学自習を経験し、自ら学び自ら考える育成を図ることができると思う。

また、全校生徒と先生方がいつも一緒に給食を取られているということで、当日ご一緒させていただき、和やかな中に子どもたちのコミュニケーション能力が養われており、心豊かな自主性と連帯感の強さを感じた次第です。郷土の誇りを胸に、大きく羽ばたいて欲しいと願います。（林 節子）

初めて参観させてもらった複式学級の授業に、非常に驚いたというのが正直なところだ。メリット・デメリットはそれぞれあると思うが、複式の授業風景を見て、教師の大変さを痛感した。もちろんそれに備える授業に対する組み立ては、かなりの時間も必要と思うが、それよりも無駄な時間が無いよう自主学習と教師に代わるリーダー的存在が必要であるということに驚いた。複式のクラスにある程度慣れていけば生徒もうまく授業をこなせると思うが、教師も慣れるまで生徒以上に負荷がかかると感じた。しかし、少人数である分、しっかりと指導してもらえるメリットは大きい。

複式解消授業に関しては、まさに少人数学級の授業であるので、非常にメリットがある。マンツーマンに近い指導ができることのメリットは、かなり大きいと感じる。ただし、学年に一人という児童に対しては、塩田小での合同授業

に参加しているという説明があったが、非常に重要な対応であると感じた。

今後光市の学校の統合について進まざるをえない状況であるが、偏った地域の状況だけを考えるのではなく、光市全体の教育環境をどのように進めていくのかという視点で考えていく必要があると痛感した。（磯部 登志恵）

視察では、「ピンチはチャンス。少人数の良さを活かす」を合言葉に取り組む姿勢に感心させられた。複式授業は、生徒たちに自発的な行動力を身につけさせるには大きな効果があるが、一方で、そういった効果が中学校の大人数の中で埋没されているのではないかという疑問も抱かされた。

いずれにしても、議会としてこの複式事業のあり方について今後とも目を向けていかなければならないことを痛感した。（加賀美 允彦）

複式学級での授業を現場で確認し、学年を超えて学びあうことができることや、みずから考える力を養う自主性、個別指導ができるなどのメリットは感じたものの、相互交流の相手が限定されることや、発展性に欠けること、競争力が乏しくなるなどのデメリットがあることが確認された。

教育の観点から、少人数での学習効果とともに公共施設としてのあり方について、改めて検証する必要性を感じた。

今後の学校コミュニティ・地域コミュニティとの関わりを含め、しっかりと地に足の着いた施策につながるよう検討したい。（木村 信秀）

東荷小学校での複式学級の取り組みは、生徒のコミュニケーション不足を解消するため、学校間交流や団体給食など、さまざまな工夫をしていることが授業を通じて見受けられた。（木村 則夫）

視察を通じて、複式学級では、個人が集中的に学ぶことができるという長所をある反面、生徒の競争力低下やコミュニケーション習得が不十分になるのではという不安も感じられた。

しかしながら、近隣小学校同士の交流や給食を皆で食べたりするなど短所を克服できるよう、教員の皆さんがさまざまな工夫を行っている様子が伺われた。

地域によってさまざまな教育の形があるが、子どもたちが幸せを感じられるよう地域全体で支えていく教育の充実を今後も期待する。（中本 和行）

全校生徒 16 名の少人数学校の授業の取組みを実際に視察して、複式学級での「学び」がよく理解できた。教員の先生がたも、常に 2 つの授業内容に意識しつつ、生徒全般にも配慮をしておられる事に、通常のクラスとはまた違う大変

さを感じたりもする。複式授業のメリットもデメリットもあるが、少人数の良さが十分に生かされたかたちで児童生徒に提供され、思い出多き小学校生活となる事を期待したい。

中学校では、大和地域で一本化される訳だが、中1ギャップなど急激な変化に対応できるよう、自然なかたちでの交流学习などさらに充実させてほしい。また、学校給食については、全児童生徒、先生と共にランチルームで会食。親しく懇談できた。当日のランチタイム担当者がクイズをするなど、給食時間にも発表の機会と体験を取り入れている。給食は、なかなかおいしく、完食の子どもたちが多かった。

(森重 明美)

東荷小については、子供たちの教育方法に疑問を感じた。一つの教室の後ろと前で別の学年が授業を同時進行することで本当に学力形成につながるのか。社会性が身に着けられるのか。教育委員会は義務教育15年の学びの中で考えているという説明を聞いても納得できない。公教育は、誰にでも等しく教育環境を提供する義務があるはずだが、当小学校の生徒はその機会を失っている。地域の火が消えるという地域感情も理解できるが、子供たちの人生すべてに責任は負えない。早急に地元、保護者、学校で本当に大切なものは何かを協議し、統合向かうべきだ。

(森戸 芳史)

- 1 3年生4人、4年生1人の複式算数授業を見学した。一つの教室内を二分して、一人の教師が学年別に授業をすすめており、教師はときおり小走りで移動していた。この子供たちが大きくなったとき、大規模校では味わえない、教育の重み、教師の献身性に思いを寄せるのではないかと考えた。
- 2 いろいろと模索している模様で、東荷小学校の4年生一人が、塩田小学校4年生と合同授業もはじめている。4年前の塩田小学校の視察では、3年生6人と4年生5人の複式国語授業を見学したことがある。3年生は黒板に向かって教師による授業、4年生は生徒リーダーのリードで授業がすすめられており、教師は時々4年生の授業にも見配りし、発言していた。4年生は国語の本を読み合わせ、リーダーが各人に感想を求めている。リーダーは交代制で、生徒自身が授業をリードするこの方式も悪くないと印象に残っている。
- 3 生徒や教師と一緒に学校給食をおいしくいただいた。給食中にゲームもあり和やかなひとときを過ごした。

(四浦 順一郎)